

# 調査の結果

## 1 暮らし向き

### 問1 暮らし向き

お宅の暮らし向きは、昨年の今ごろに比べて良くなりましたか。それとも悪くなりましたか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

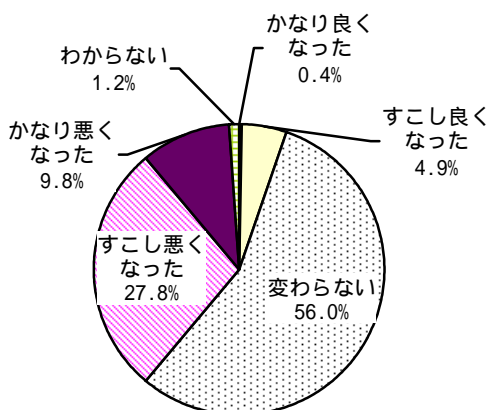
	(%)
1 かなり良くなった	0.4
2 すこし良くなった	4.9
3 変わらない	56.0
4 すこし悪くなった	27.8
5 かなり悪くなった	9.8
6 わからない	1.2

それは主にどういう理由によるものですか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

	(N = 318)	(%)
1 日常の生活費が増えた		13.5
2 収入が減った(働き手が減った)		46.5
3 営業不振、営業経費が増えた		10.7
4 教育費が増えた		8.8
5 特別事情による(結婚、出産、病気、災害など)		9.1
6 その他		7.9
7 わからない		3.5

暮らし向きが昨年に比べて「良くなった」と思うか、それとも「悪くなった」と思うかを聞いたところ、「変わらない」と答えた人の割合が56.0%と半数以上を占めている。

また、「良くなった」(「かなり良くなった」及び「すこし良くなった」と答えた人の割合は5.3%で、「悪くなった」(「すこし悪くなった」及び「かなり悪くなった」と答えた人の割合は37.6%であった。

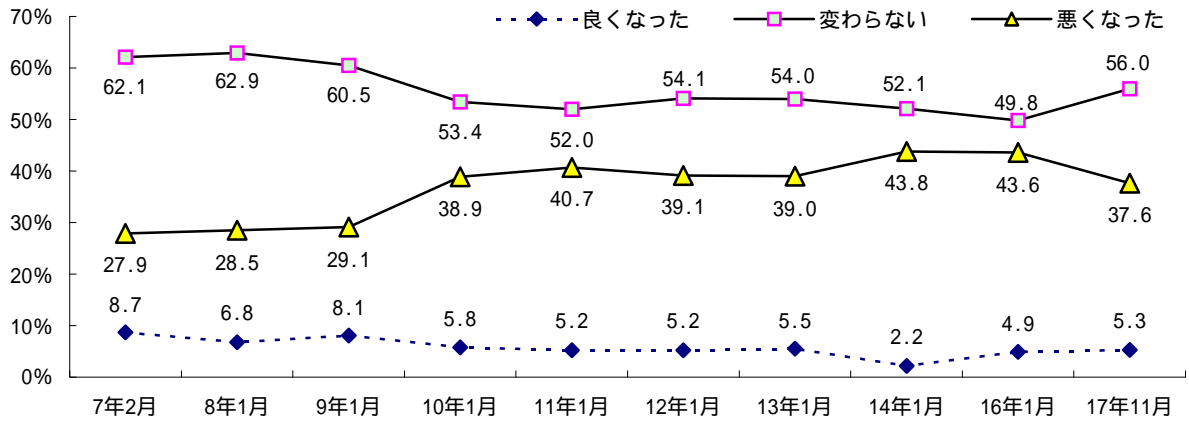


(悪くなった 37.6%)

(良くなった 5.3%)

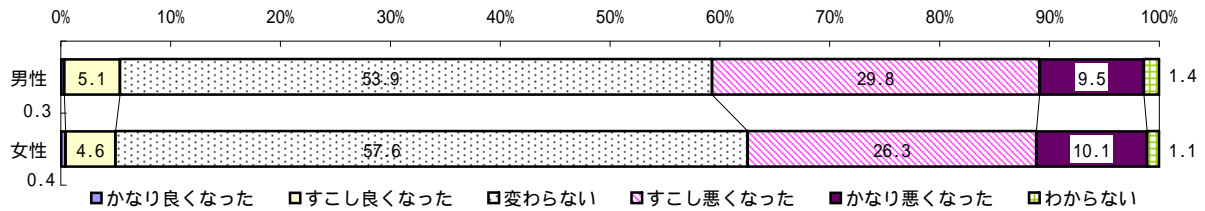
### 【経年変化】

経年変化をみると、「悪くなった」と答えた人の割合が平成14年調査をピークに減少に転じ、平成16年調査(以下「前回調査」という。)と比較して6.0ポイント減少し、「変わらない」と答えた人の割合が6.2ポイント増加している。



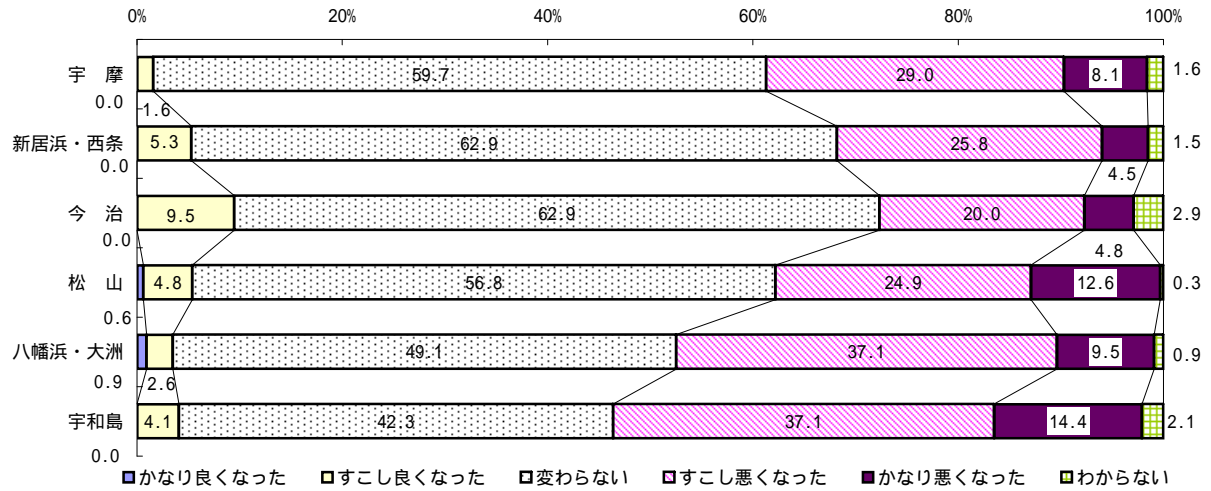
【性別】

性別にみると、「悪くなった」と答えた人の割合は男性で高くなっている。



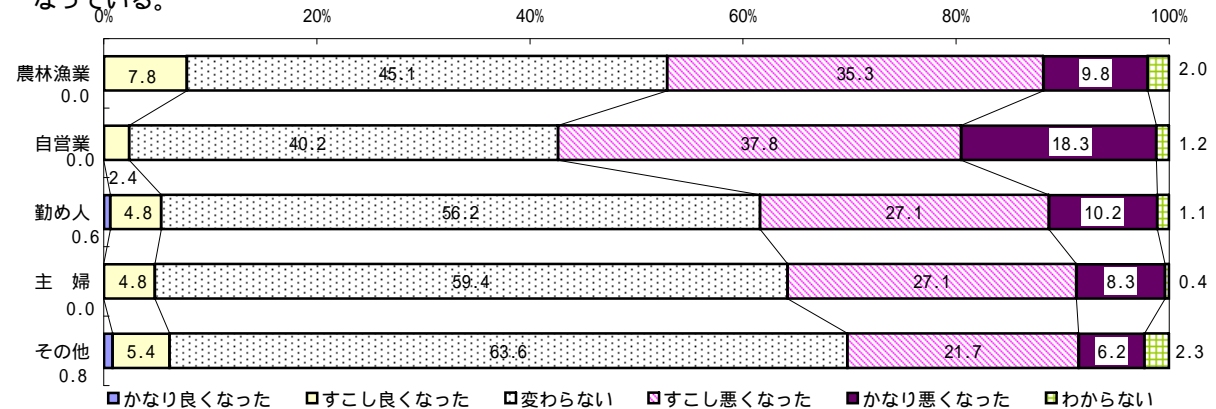
【生活圏域別】

生活圏域別にみると、「良くなった」と答えた人の割合は今治圏域で、「悪くなった」は宇和島圏域で最も高くなっている。



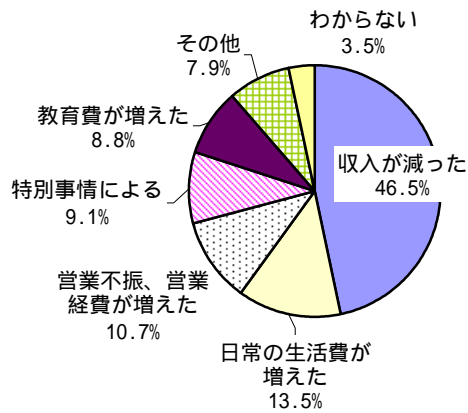
【職業別】

職業別にみると、「良くなった」と答えた人の割合は農林漁業で、「悪くなった」は自営業で最も高くなっている。



### 《暮らし向きが悪くなった理由》

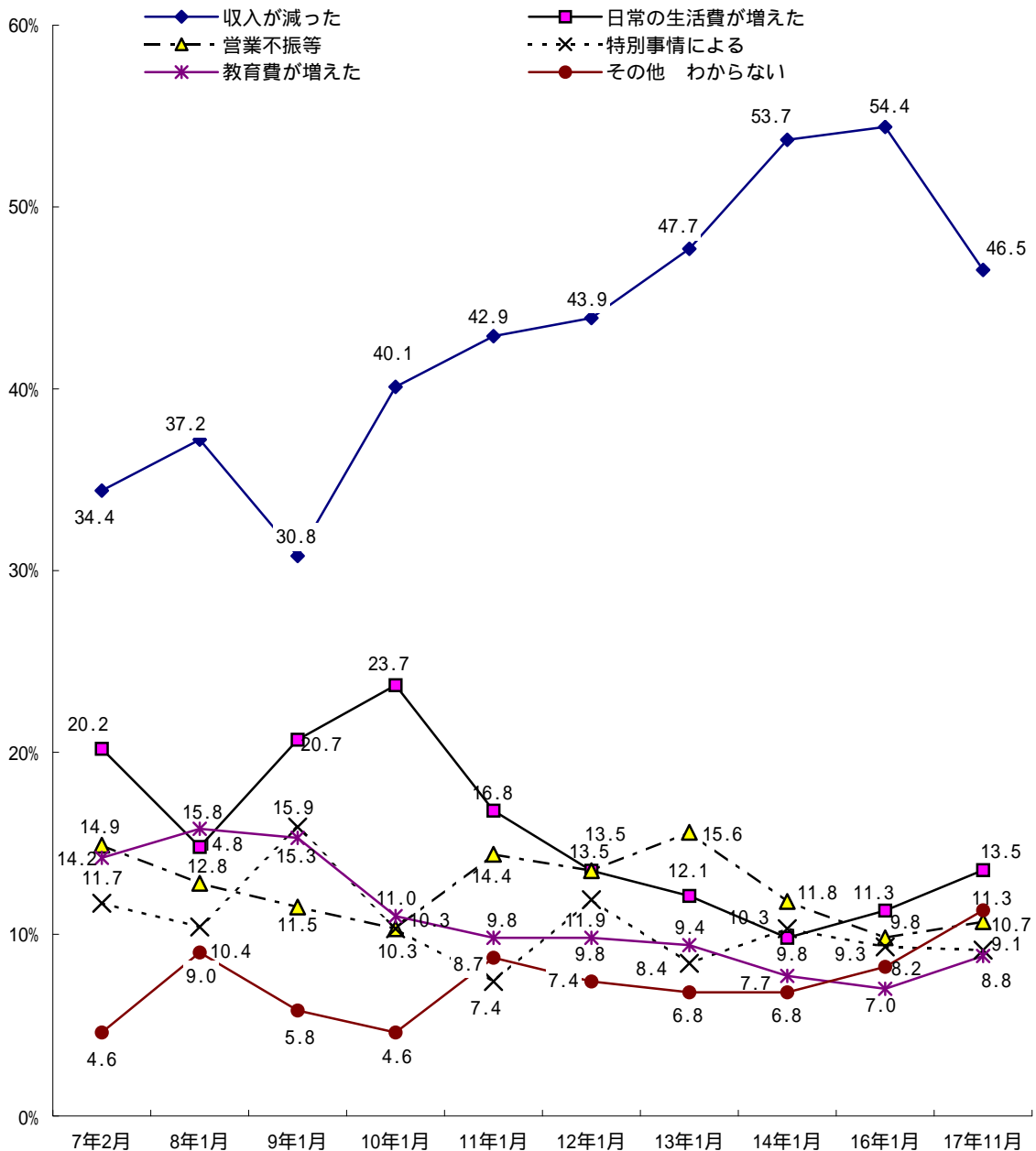
暮らし向きが「悪くなった」と答えた人に、その主な理由を聞いたところ、「収入が減った（働き手が減った）」（46.5%）が特に高く、以下「日常の生活費が増えた」（13.5%）、「営業不振、営業経費が増えた」（10.7%）、「特別事情による（結婚、出産、病気、災害など）」（9.1%）、「教育費が増えた」（8.8%）の順となっている。



### 【経年変化】

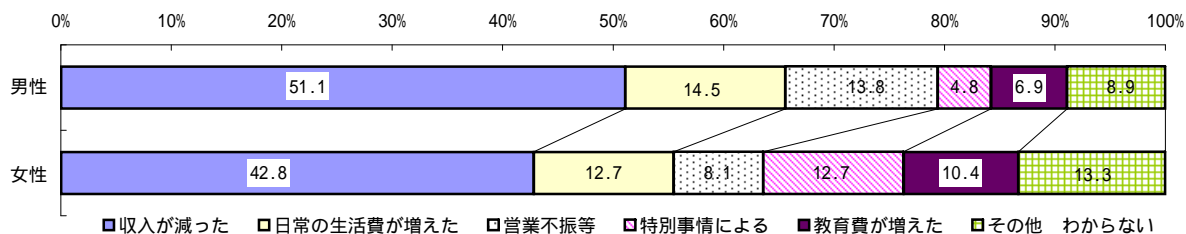
経年変化をみると、暮らし向きが悪くなった理由のうち「収入が減った（働き手が減った）」が前回調査に比べ7.9ポイント減少したものの、10年連続で第1位となっている。

また、「日常の生活費が増えた」が2.2ポイント、「教育費が増えた」が1.8ポイント、「営業不振等」が0.9ポイントそれぞれ増加している。



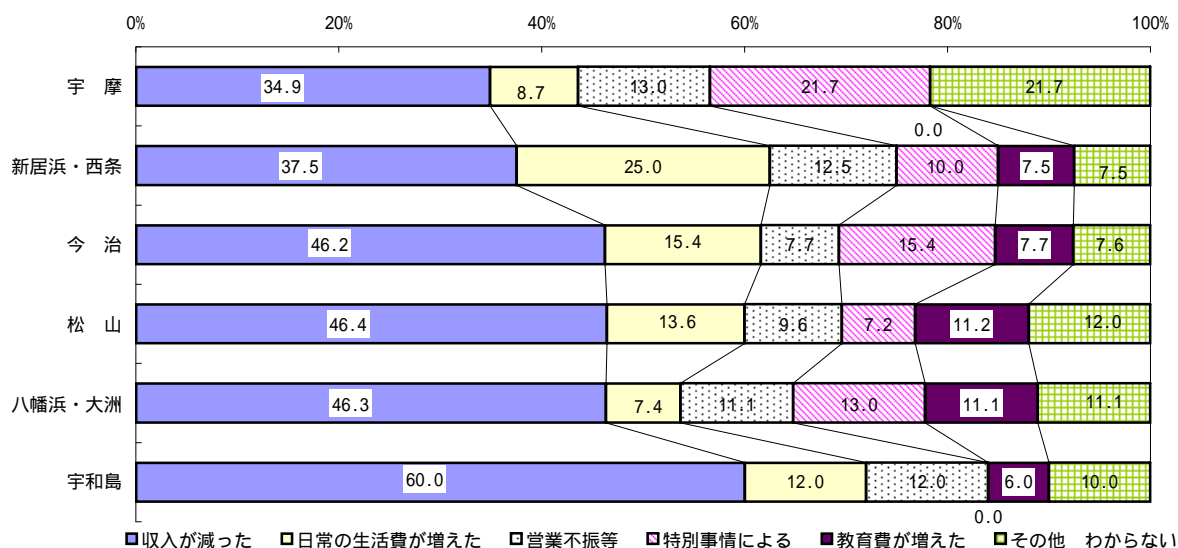
### 【性別】

性別にみると、「収入が減った」、「日常の生活費が増えた」、「営業不振等」は男性で、「特別事情による」、「教育費が増えた」は女性でそれぞれ高くなっている。



### 【生活圏域別】

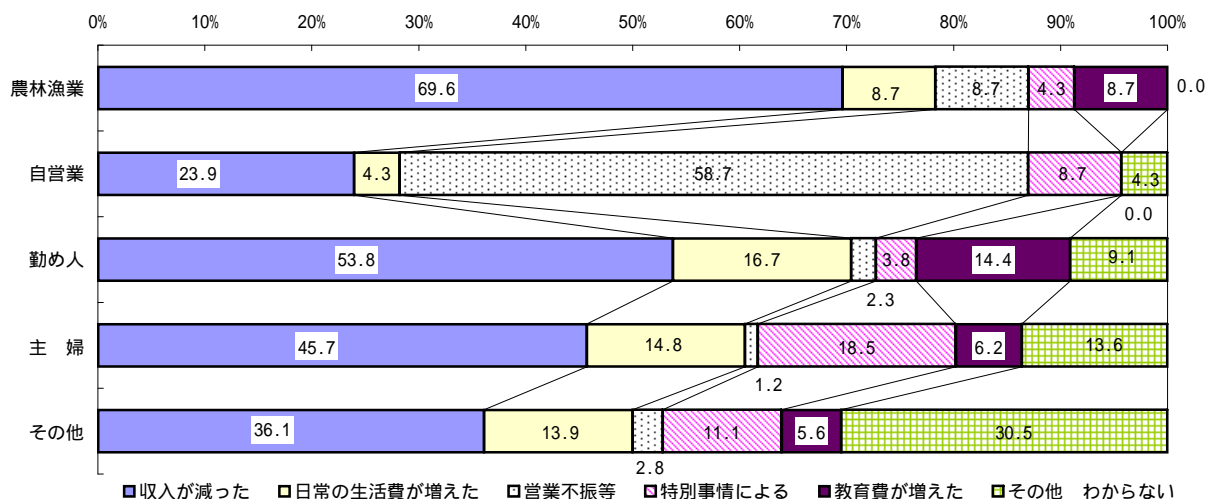
生活圏域別にみると、「収入が減った」と答えた人の割合は宇和島圏域で、「日常の生活費が増えた」は新居浜・西条圏域で、「営業不振」は宇摩圏域で最も高くなっている。



### 【職業別】

職業別にみると、自営業では「営業不振等」(58.7%)と答えた人の割合が最も高く、その他の職業では「収入が減った(働き手が減った)」と答えた人の割合が最も高くなっている。

また、「教育費が増えた」と答えた人の割合は勤め人(14.4%)が他の職業と比較して高く、「特別事情による」と答えた人の割合は、主婦(18.5%)が他の職業と比較して高くなっている。



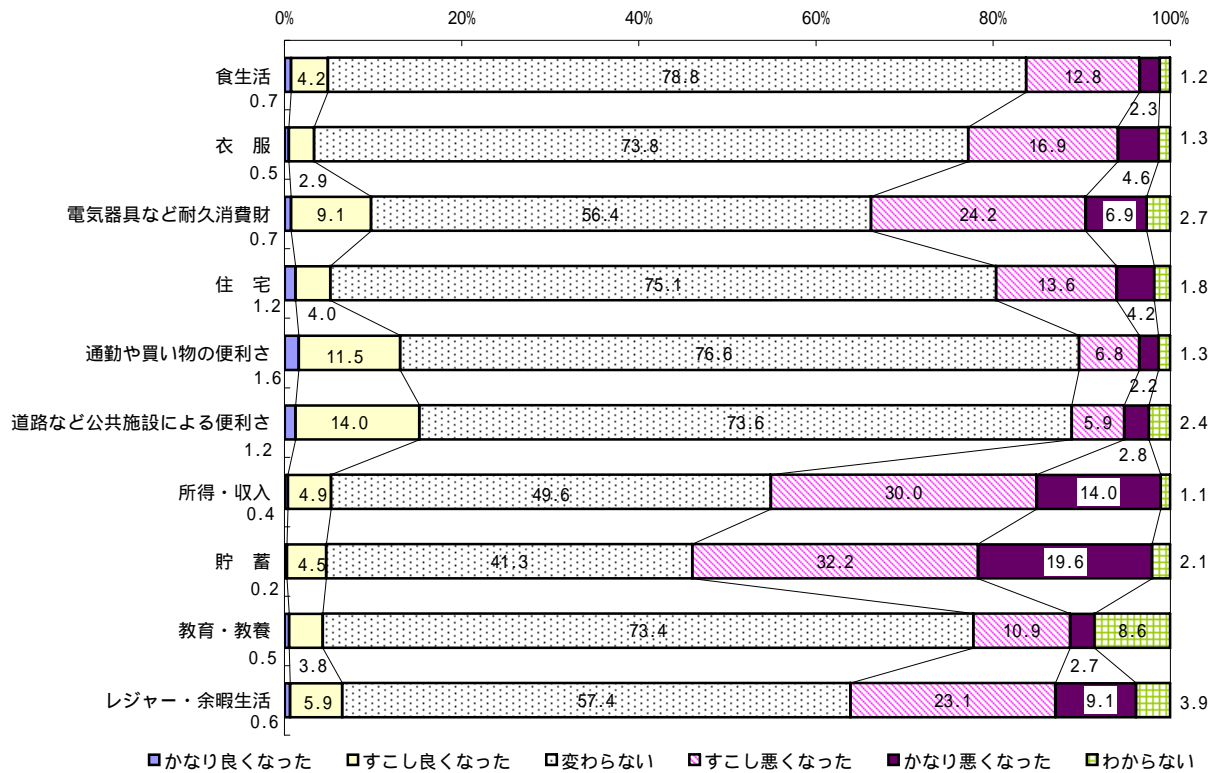
## 問2 暮らし向きの変化

お宅の暮らしの中で、次の各項目は、昨年の今ごろに比べ良くなりましたか。それとも悪くなりましたか。項目ごとにそれぞれ該当するものを一つずつ選んで番号を囲んで下さい。

項 目	かなり良くなった	すこし良くなった	変わらない	すこし悪くなった	かなり悪くなった	わからない
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
1 食生活	0.7	4.2	78.8	12.8	2.3	1.2
2 衣服	0.5	2.9	73.8	16.9	4.6	1.3
3 電気器具、家具、自動車など 耐久消費財	0.7	9.1	56.4	24.2	6.9	2.7
4 住宅	1.2	4.0	75.1	13.6	4.2	1.8
5 通勤や買い物の便利さ	1.6	11.5	76.6	6.8	2.2	1.3
6 道路など公共施設による便利さ	1.2	14.0	73.6	5.9	2.8	2.4
7 所得・収入	0.4	4.9	49.6	30.0	14.0	1.1
8 貯蓄	0.2	4.5	41.3	32.2	19.6	2.1
9 教育・教養	0.5	3.8	73.4	10.9	2.7	8.6
10 レジャー・余暇生活	0.6	5.9	57.4	23.1	9.1	3.9

暮らしの各面から10項目を取り上げ、昨年に比べて「良くなった」（「かなり良くなった」及び「すこし良くなった」）か、あるいは「悪くなった」（「すこし悪くなった」及び「かなり悪くなった」）かをそれぞれ聞いたところ、「良くなった」と答えた人の割合が、「道路など公共施設による便利さ」（15.2%）、「通勤や買い物の便利さ」（13.1%）では、「悪くなった」と答えた人の割合より高くなっている。

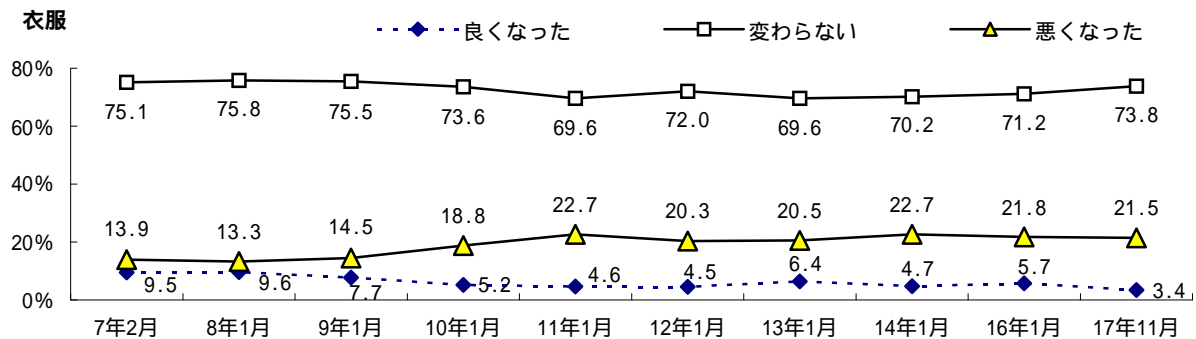
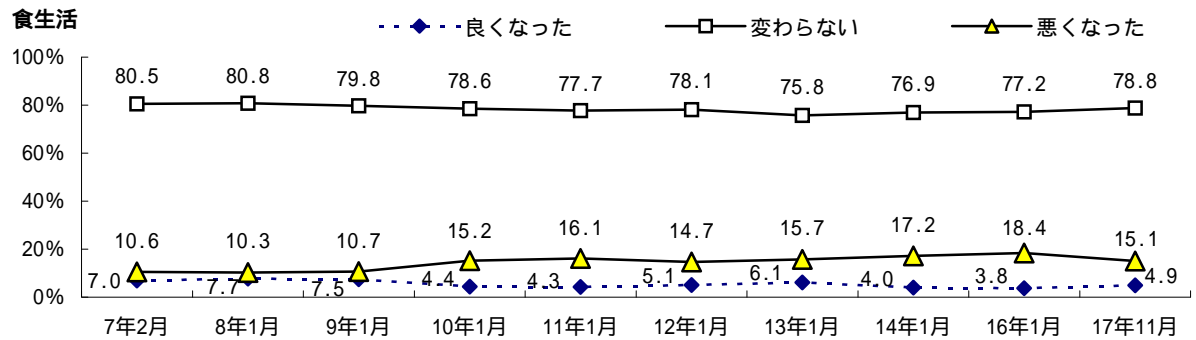
一方「悪くなった」と答えた人の割合は、「貯蓄」（51.8%）、「所得・収入」（44.0%）、「レジャー・余暇生活」（32.2%）、「電気器具等耐久消費財」（31.1%）の順で高くなっている。



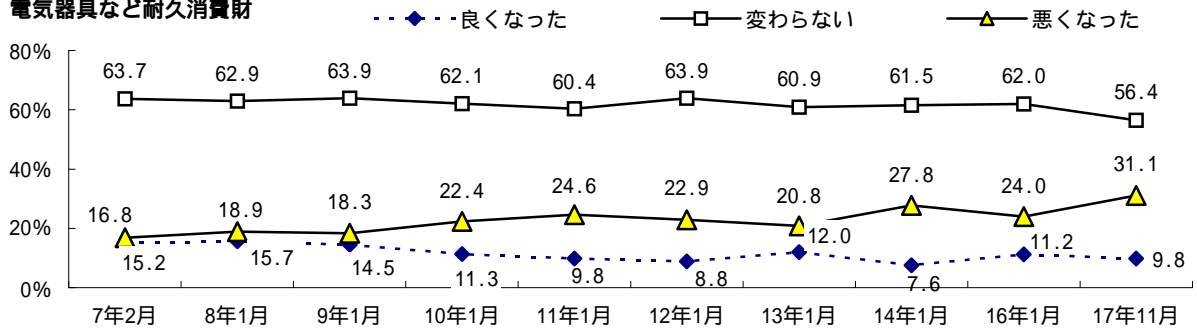
### 【経年変化】

経年変化をみると、「悪くなった」と答えた人の割合が最も高いのは「貯蓄」のみで、それ以外の項目では「変わらない」と答えた人の割合が最も高くなっている。

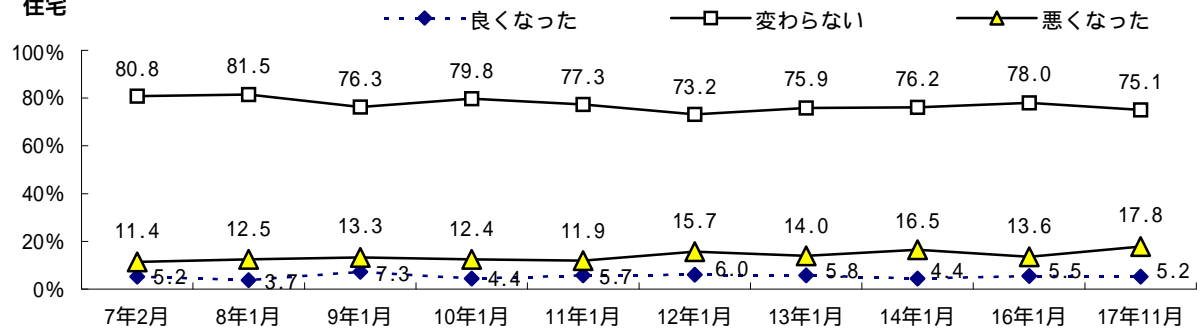
なお、前回調査と比べると、「良くなった」と答えた人の割合が増加しているのは、「食生活」及び「教育・教養」であり、逆に「悪くなった」と答えた人の割合が増加しているのは、「電気器具など耐久消費財」、「住宅」、「通勤等の便利さ」、「道路などの便利さ」である。



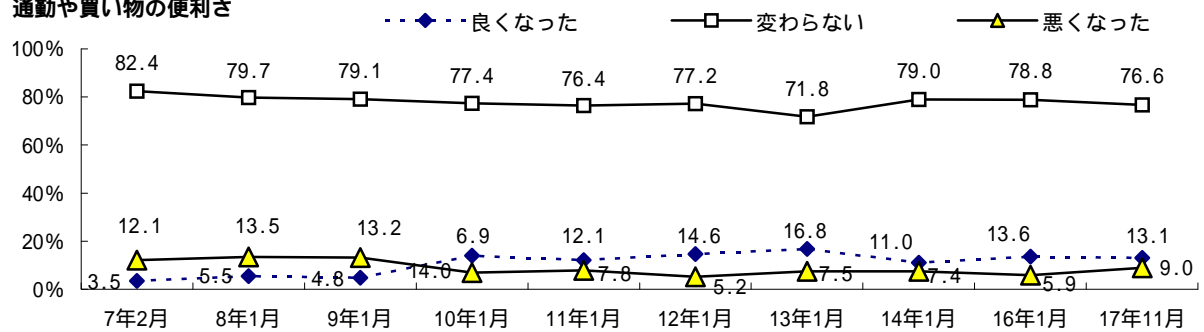
電気器具など耐久消費財



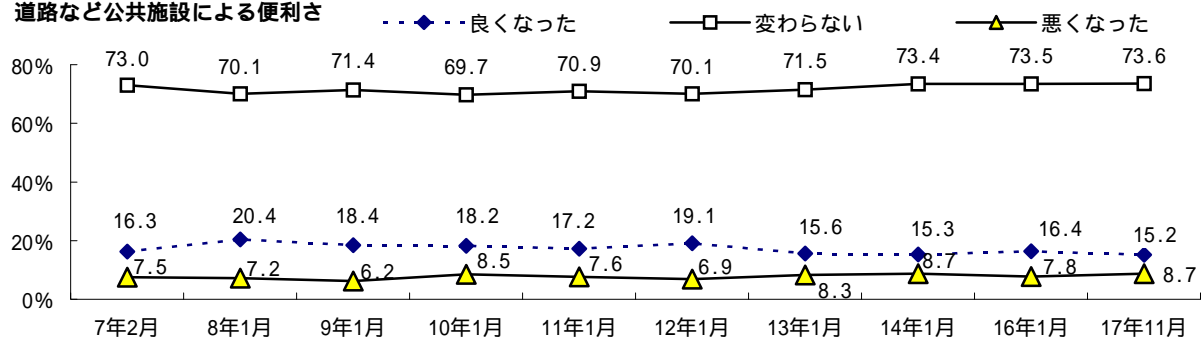
住宅

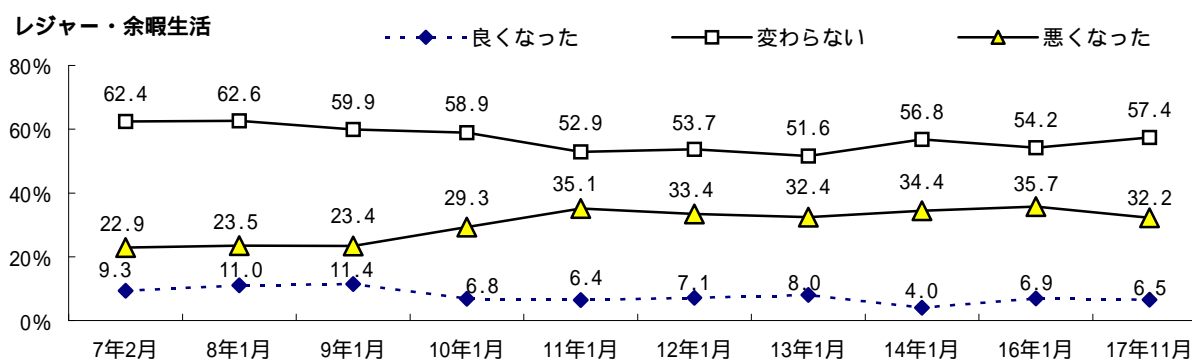
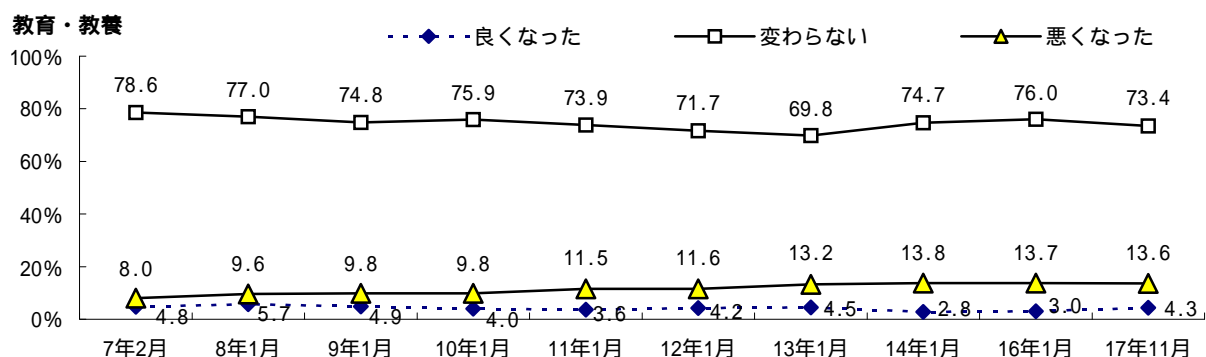
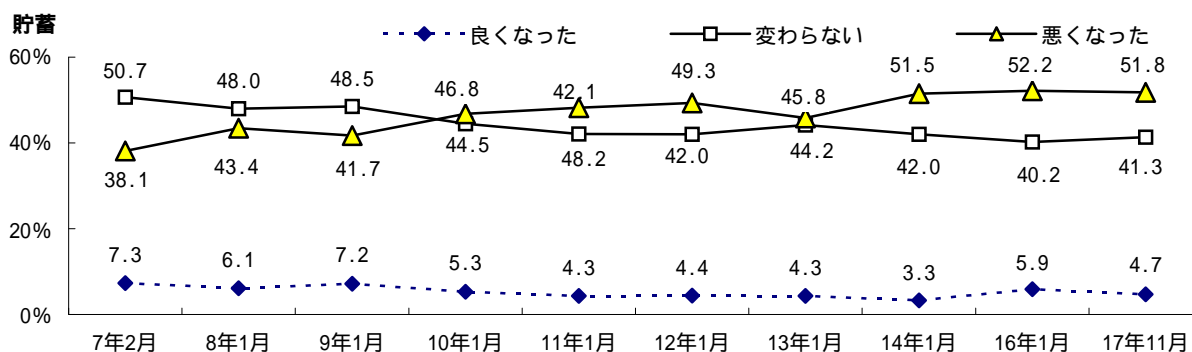
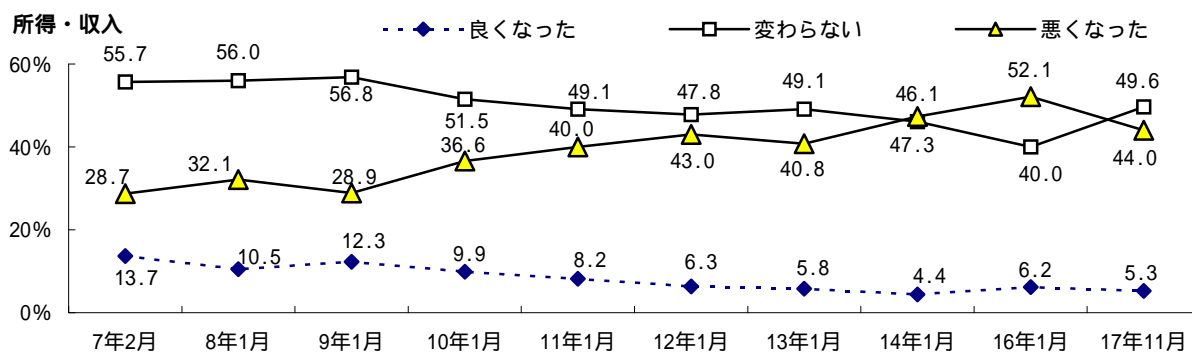


通勤や買い物の便利さ



道路など公共施設による便利さ





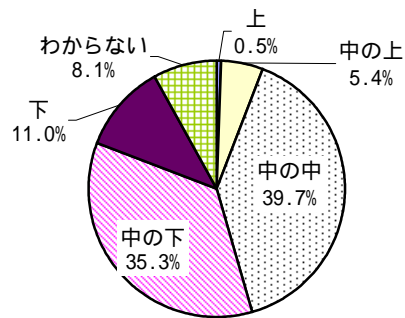


### 問3 暮らし向きの程度

お宅の暮らしの程度は、世間一般からみて、次のどれに入りますか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

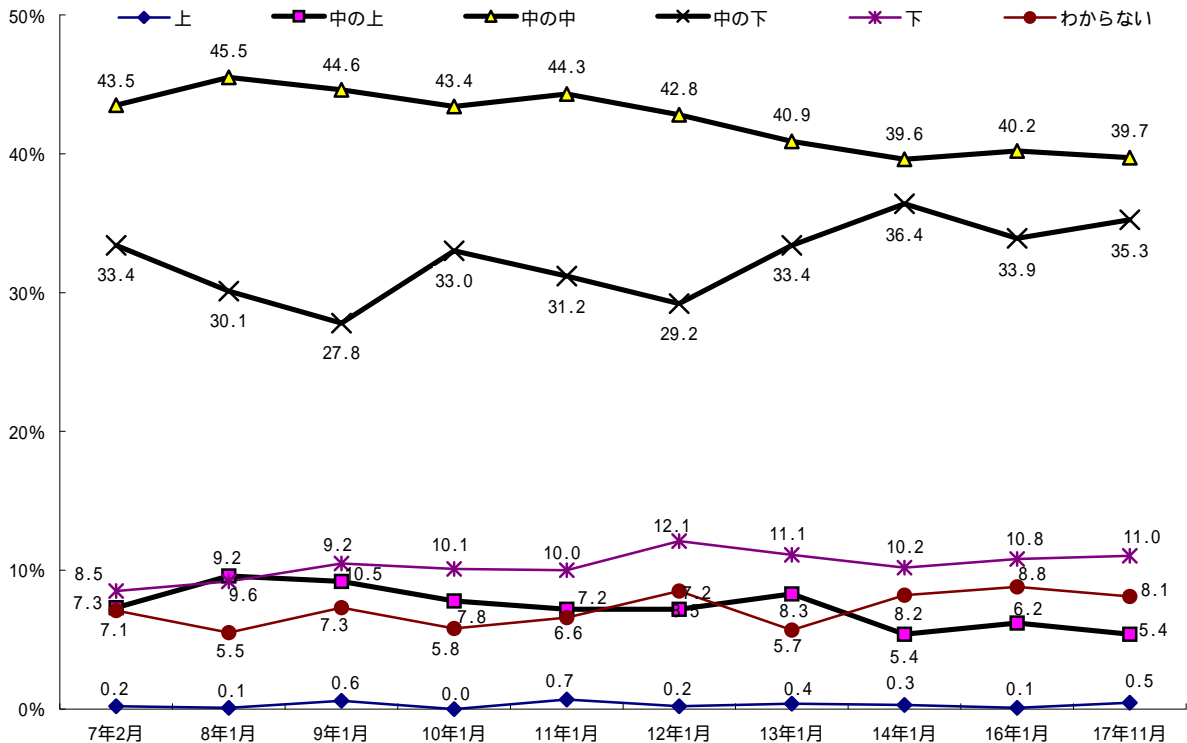
	(%)
1 上	0.5
2 中の上	5.4
3 中の中	39.7
4 中の下	35.3
5 下	11.0
6 わからない	8.1

暮らし向きの程度を世間一般からみてどの程度だと思っているかを聞いたところ、「中の中」と答えた人の割合が39.7%と最も多く、「中の上」と答えた人（5.4%）及び「中の下」と答えた人（35.3%）の割合とを合わせて80.4%の人が中流意識を示している。  
また、「上」と答えた人の割合は0.5%、「下」と答えた人の割合は11.0%であった。



#### 【経年変化】

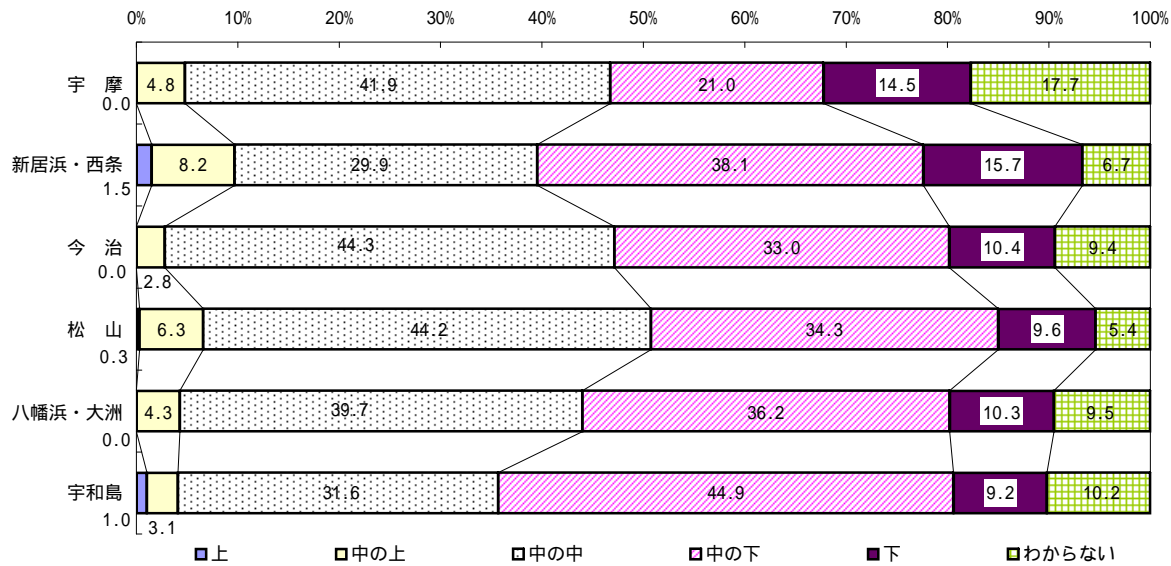
経年変化をみると、県民の中流意識は引き続き強く、いずれの調査年においても、8割程度の人が、自分の家庭の暮らし向きの程度を中程度だと評価しているが、前回調査と比べ「中の下」と答えた人の割合が1.4ポイント増加し、「中の上」と答えた人の割合は0.8ポイント減少している。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、「中の下」と答えた人の割合が高いのは新居浜・西条圏域と宇和島圏域で、他の生活圏域は「中の中」と答えた人の割合が最も高くなっている。

また、「下」と答えた人の割合は、新居浜・西条圏域(15.7%)、宇摩圏域(14.5%)が、他の生活圏域と比べて高くなっている。



#### 問4 資産の程度

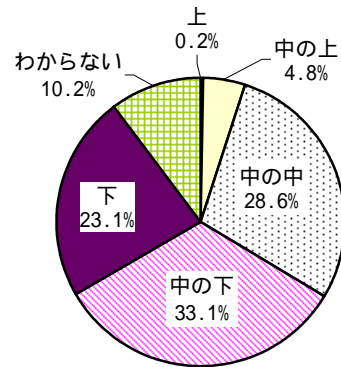
それでは、お宅の資産（土地、家屋、預貯金等）は、世間一般からみて、次のどれに入りますか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

(%)

1	上	0.2
2	の中上	4.8
3	の中中	28.6
4	の中下	33.1
5	下	23.1
6	わからない	10.2

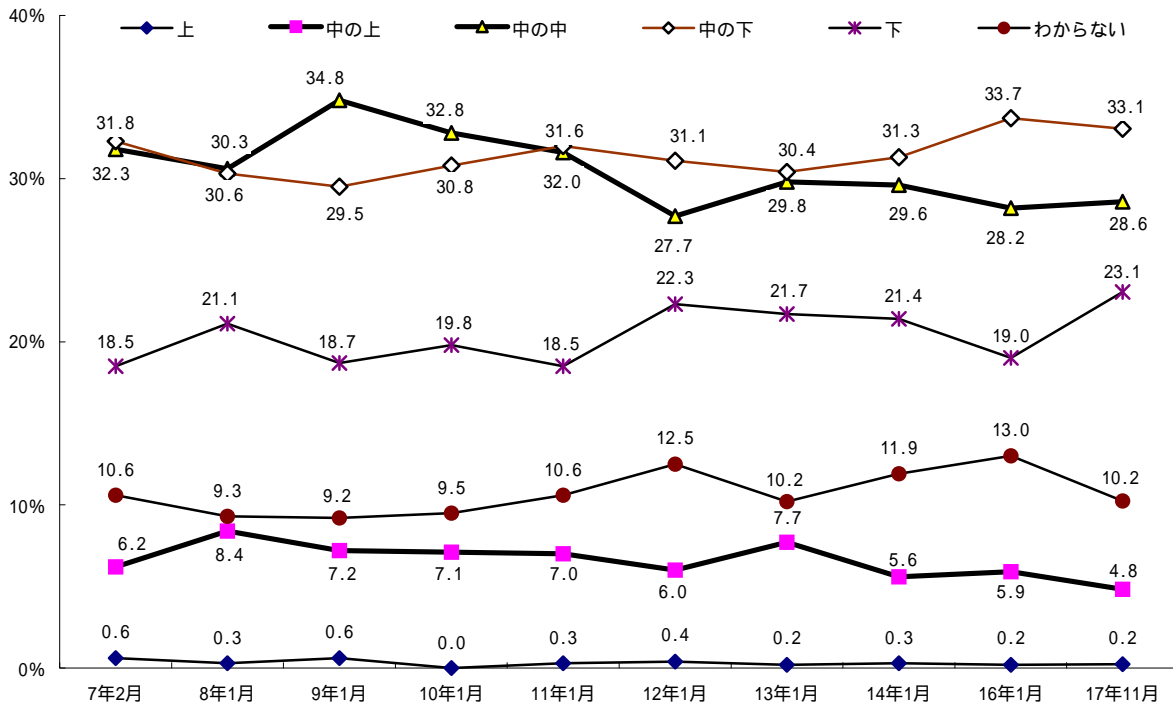
資産（土地、家屋、預貯金等）の程度を世間一般からみてどの程度だと思っているかを聞いたところ、「中の下」（33.1%）又は「中の中」（28.6%）と答えた人の割合が特に高く、これに「の中上」（4.8%）を加えると、66.5%の人が中流意識を示している。

また、「上」と答えた人の割合は0.2%、「下」と答えた人の割合は23.1%であった。



#### 【経年変化】

経年変化をみると、県民の中流意識は引き続き強いが、「の中上」と答えた人の割合はこれまでで最も低く、「下」と答えた人はこれまでで最も多い。



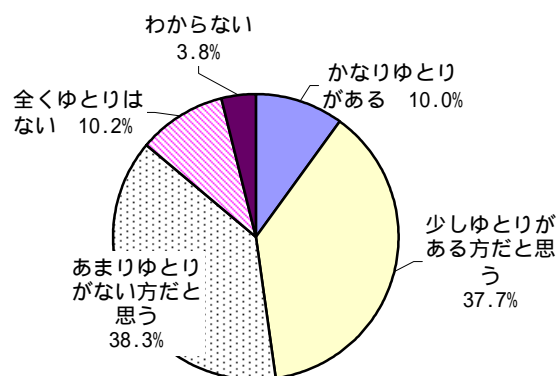
## 問5 生活のゆとり感

では、あなたは、普段の生活で時間的なゆとりがある方だと思いますか。それともない方だと思いますか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

(%)

1	かなりゆとりがある	10.0
2	少しゆとりがある方だと思う	37.7
3	あまりゆとりがない方だと思う	38.3
4	全くゆとりはない	10.2
5	わからない	3.8

普段の生活における時間的なゆとりの有無について聞いたところ、「かなりゆとりがある」(10.0%)及び「少しゆとりがある方だと思う」(37.7%)と答えた人の割合を合わせて47.7%の人は、時間的な「ゆとりがある」と考え、「ゆとりがない」(「あまりゆとりがない方だと思う」(38.3%)及び「全くゆとりはない」(10.2%))と答えた人の48.5%をやや下回っている。

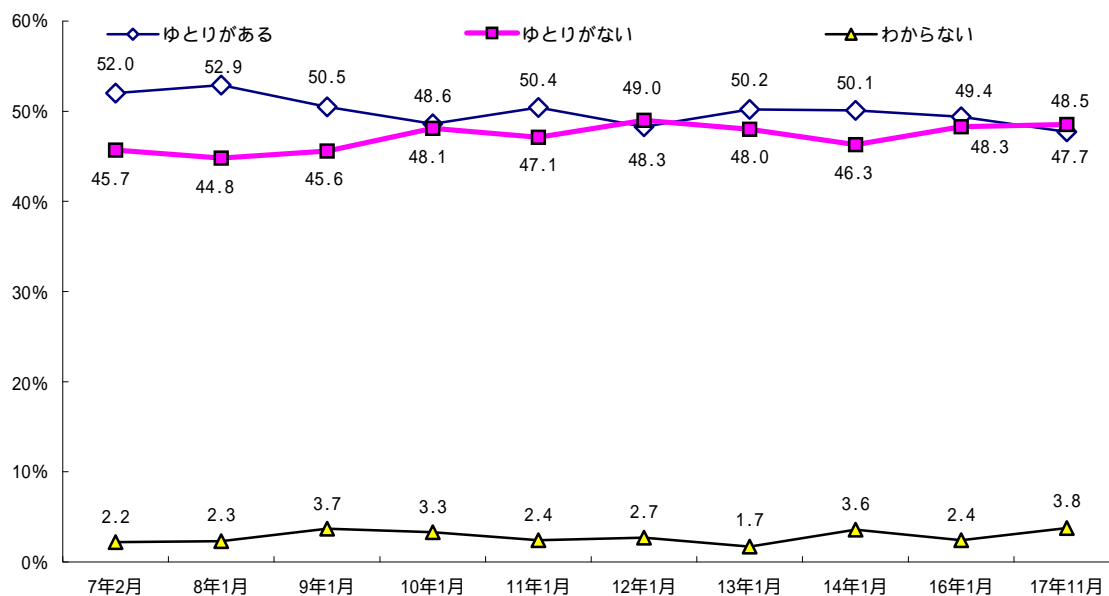


(ゆとりはない 48.5%)

(ゆとりがある 47.7%)

### 【経年変化】

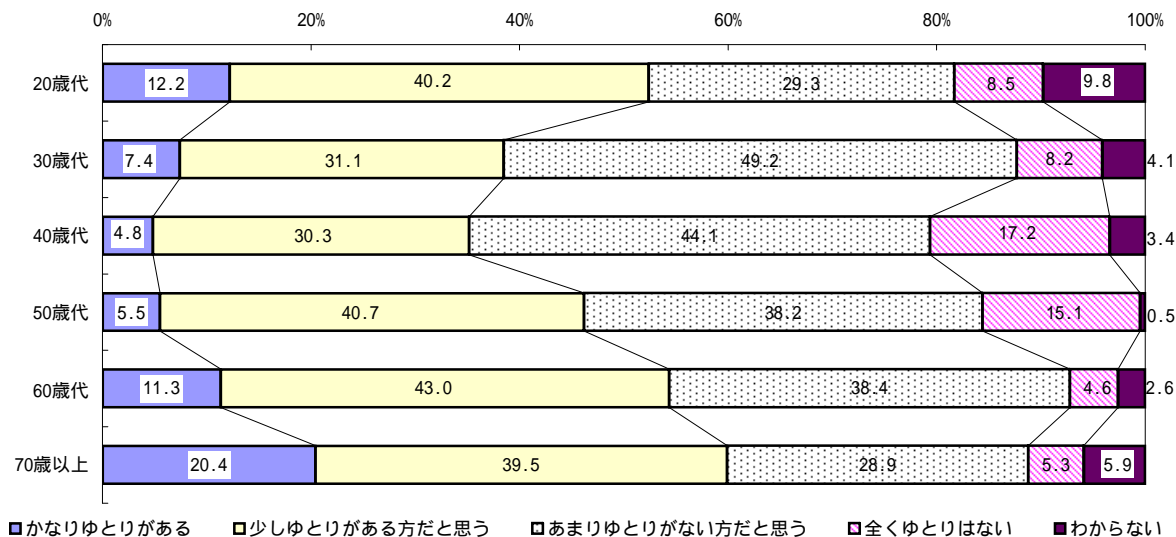
経年変化をみると、生活のゆとり感には大きな変化はみられない。



### 【年齢別】

年齢別にみると、「ゆとりがある」と答えた人の割合は、70歳以上（59.9%）で最も高く、40歳代（35.1%）で最も低くなっている。

なお、「ゆとりがある」と答えた人の割合が「ゆとりがない」と答えた人の割合を上回っているのは、20歳代、60歳代及び70歳以上となっている。



### 【職業別】

職業別にみると、「ゆとりがある」と答えた人の割合は主婦（61.4%）、その他（63.9%）で特に高く、「ゆとりがない」と答えた人の割合は、自営業（63.4%）で最も高くなっている。

